

新規記事種目「教材開発」について

2023.4.28 『専門日本語教育研究』編集委員会

留学生が学ぶ分野が多様になり、外国人が就労する職種が増えている現在、専門日本語教育が対応する範囲も以前より幅広くなっています。それに伴い、学習支援の一環として新たな分野での教材開発が必要となると考えられます。

専門日本語教育学会の学会誌『専門日本語教育研究』においても、以前は教材開発を扱った論文、報告が一定数ありましたが、最近は非常に少なくなっています。そこで、専門日本語教育分野での教材開発に関する知見の共有を進めるために、新たに「教材開発」という記事種目を設けることになりました。

本種目では、今後教材を開発する人が参照できるよう、開発した（している）教材について以下の記述が求められます。

（これらの内容が含まれていれば、必ずしもこの通りの章立てにする必要はありません。）

①対象となる学習者とその学習目的

どのような目的で、どのような日本語を学ぶ学習者を対象とした教材なのか。また、開発者は何を基にそのような学習ニーズがあると考えたのか。

②学習の方法（形態）

教育機関で授業という形態で使用するものなのか、授業外で自律学習として使用するものなのか。

③教材が扱うデータについて

その教材で扱うデータ（語彙、表現、文型等）は、何を基にどのような手順で収集したのか。

④教材の形態

教材の形態（ワークブック、語彙集、動画、ウェブサイト、アプリ等）およびその形態を選択した理由。

⑤教材開発のプロセス

教材を開発する各段階で誰がどのような作業を行ったか。

⑥教材の構造・特色

開発した教材の構造および特色（セールスポイント）。

⑦教材の使用方法

開発した教材の使用方法についての説明。

⑧教材開発上の課題

教材を開発する上での（技術的、経済的、マネジメント上の）課題、困難点。

そして、可能であれば、

- ⑨教材の周知の方法
- ⑩教材の学習効果
- ⑪教材に対する（学習者や支援者の）評価

について触れられていれば、これから新たに専門日本語教育の教材を開発しようとする人にとって大いに参考になるでしょう。

教材開発に関する多くの論文が掲載され、論文が専門日本語教育の教材開発に関する知見の共有が進むことを願っています。

なお、教材開発は新しいカテゴリーであり、通常の論文と査読の基準が異なる部分がありますので、査読の観点をお示しします。投稿の際の参考となさってください。

①専門日本語教育への適合性

専門日本語教育の教材として日本語教育現場に資するものか。

②教材としての新規性

従来の教材にない内容上または方法上の新規性を有し、今後の新たな教材開発につながるものか。

③教材としての効果

当該教材の学習目的・学習ニーズに十分応え得るものであるか

④教材としての汎用性

教材として容易に学習できる使いやすさを備えているか。

⑤教材としての質

教材として学術的な裏付けのある高い質を有したものであるか。

⑥教材としての体系性と網羅性

必要な能力を身に付けるのに十分な体系性と網羅性を備えているか。

⑦倫理上の問題

商業的な宣伝に直接つながる内容になっていないか。

使われているソースに倫理上の問題はないか。

使用する学習者の人権に配慮した個人情報等の保護が行われているか。

(以上です)